



Red Hat Quay 3.8

Red Hat Quay リリースノート

Red Hat Quay

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Quay リリースノート

目次

はじめに	3
第1章 CLAIR CRDA エンドポイントが無効	4
第2章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	5
2.1. バグ修正	5
第3章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	6
第4章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	7
第5章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	8
5.1. バグ修正	8
第6章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	9
第7章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新	10
7.1. バグ修正	10
第8章 RHBA-2023:3681 - RED HAT QUAY 3.8.9 バグ修正更新	11
8.1. バグ修正	11
第9章 RHBA-2023:3181 - RED HAT QUAY 3.8.8 バグ修正の更新	12
9.1. バグ修正	12
第10章 RHBA-2023:2087 - RED HAT QUAY 3.8.7 バグ修正の更新	13
10.1. バグ修正	13
第11章 RHBA-2023:1874 - RED HAT QUAY 3.8.6 バグ修正の更新	14
11.1. バグ修正	14
第12章 RHBA-2023:1498 - RED HAT QUAY 3.8.5 バグ修正の更新	15
12.1. バグ修正	15
第13章 RHBA-2023:1188 - RED HAT QUAY 3.8.4 バグ修正の更新	16
13.1. バグ修正	16
第14章 RHBA-2023:0906 - RED HAT QUAY 3.8.3 バグ修正の更新	17
14.1. バグ修正	17
第15章 RHBA-2023:0789 - RED HAT QUAY 3.8.2 バグ修正の更新	18
15.1. バグ修正	18
第16章 RHBA-2023:0044 - RED HAT QUAY 3.8.1 バグ修正の更新	19
16.1. バグ修正	19
第17章 RHBA-2022:6976 - RED HAT QUAY 3.8.0 リリース	20
17.1. RED HAT QUAY、CLAIR、および QUAY BUILDER の新機能と拡張機能	20
17.2. 新しい RED HAT QUAY 設定フィールド	21
17.3. RED HAT QUAY OPERATOR	23
17.4. RED HAT QUAY 3.8 の既知の問題と制限事項	23
17.5. RED HAT QUAY のバグ修正	26
17.6. RED HAT QUAY 機能トラッカー	26

はじめに

Red Hat Quay コンテナレジストリープラットフォームは、コンテナとクラウドネイティブアーティファクトの安全なストレージ、配布、およびガバナンスをあらゆるインフラストラクチャーに提供します。スタンドアロンコンポーネントとして、または OpenShift Container Platform の Operator として利用できます。Red Hat Quay には、以下の機能と利点が含まれています。

- 詳細なセキュリティー管理
- あらゆる規模で高速かつ堅牢
- 高速 CI/CD
- インストールおよび更新の自動化
- エンタープライズ認証およびチームベースのアクセス制御
- OpenShift Container Platform 統合

Red Hat Quay は、新機能、バグ修正およびソフトウェアの更新を含め、定期的にリリースされます。スタンドアロンおよび OpenShift Container Platform デプロイメントの両方で Red Hat Quay をアップグレードするには、[Red Hat Quay のアップグレード](#) を参照してください。



重要

Red Hat Quay は、以前の z-stream バージョン (3.7.2 → 3.7.1 など) へのロールバックまたはダウングレードのみをサポートします。以前の y-stream バージョン (3.7.0 → 3.6.0) へのロールバックはサポートされていません。これは、Red Hat Quay の更新に、Red Hat Quay の新しいバージョンにアップグレードするときに適用されるデータベーススキーマのアップグレードが含まれている可能性があるためです。データベーススキーマのアップグレードでは下位互換性は保証されていません。

以前の z-stream へのダウングレードは、Operator ベースのデプロイメントでも仮想マシンベースのデプロイメントでも推奨もサポートもされていません。ダウングレードは、非常事態でのみ行う必要があります。Red Hat Quay サポートおよび開発チームと協力して Red Hat Quay デプロイメントをロールバックするかどうかを決定する必要があります。詳細は、Red Hat Quay サポートにお問い合わせください。

Red Hat Quay のドキュメントは、リリースごとにバージョン管理されています。最新の Red Hat Quay ドキュメントは、[Red Hat Quay ドキュメント](#) ページから入手できます。現在、バージョン 3 が最新のメジャーバージョンです。



注記

バージョン 2.9.2 より前は、Red Hat Quay は Quay Enterprise と呼ばれていました。2.9.2 以前のバージョンのドキュメントは、[Red Hat Quay 2.9 の製品ドキュメント](#) ページにアーカイブされています。

第1章 CLAIR CRDA エンドポイントが無効

2023年9月25日以降、Java 脆弱性照合用の Code Ready Dependency Analytics (CRDA) サービスが Clair で使用できなくなります。このサービスの API は別のエンドポイントに移動されています。この新しいエンドポイントをサポートするために Clair を更新する予定はありません。Clair によってインデックス付けされた Java Maven パッケージに関する CVE レポートを Red Hat Quay に保存されているコンテナイメージから継続的に取得するには、このサービスを使用する代わりに、Red Hat Quay 3.9 にアップグレードする必要があります。これにより、オフラインサポートを追加で利用でき、個別の API キーが不要になります。

第2章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

2024-02-01 の発行

Red Hat Quay リリース 3.9.6 が利用可能になりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

2.1. バグ修正

- [PROJQUAY-5967](#)。要求を再設定するための認証情報として設定エディターのシークレットパスワードを使用します

第3章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

発行日: 2024 年 1 月 16 日

Red Hat Quay リリース 3.9.6 が利用可能になりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

第4章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

発行日: 2023 年 10 月 17 日

Red Hat Quay リリース 3.9.6 が利用可能になりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

第5章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

発行日: 2024 年 1 月 16 日

Red Hat Quay リリース 3.9.6 が利用可能になりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

5.1. バグ修正

- [PROJQUAY-5967](#)。Quay Operator がローテーション時に内部サービス CA を信頼しない

第6章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

発行日: 2024 年 1 月 16 日

Red Hat Quay リリース 3.9.6 が利用可能になりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

第7章 RHBA-2023:3891 - RED HAT QUAY 3.8.10 バグ修正更新

発行日 2023-7-12

Red Hat Quay リリース 3.8.10 が利用可能になりました。更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2023:3891](#) アドバイザリーにリストされています。

7.1. バグ修正

- ([PROJQUAY-5700](#))Quay 3.9.0 Bridge Operator Critical Image の脆弱性 CVE 2021-4238。

第8章 RHBA-2023:3681 - RED HAT QUAY 3.8.9 バグ修正更新

発行日: 2023-6-20

Red Hat Quay リリース 3.8.9 が利用可能になりました。更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2023:3681](#) アドバイザリーにリストされています。

8.1. バグ修正

- [PROJQUAY-4297](#): Red Hat Quay でクォータ管理を有効にすると、スーパーユーザーパネルを開く速度が大幅に遅くなります。
- [PROJQUAY-5079](#): Red Hat Quay Operator Pod は、**horizontalpodautoscaler** パラメーターを OpenShift Container Platform 4.13 で管理されるように設定すると、**Quay** Pod をデプロイできません。
- [PROJQUAY-5273](#): プロキシ設定では、アップストリームからの anonymous (匿名) プルは許可されません。

第9章 RHBA-2023:3181 - RED HAT QUAY 3.8.8 バグ修正の更新

発行日 2023 年 5 月 24 日

Red Hat Quay リリース 3.8.8 が利用可能になりました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:3181](#) アドバイザリーにリストされています。

9.1. バグ修正

- [PROJQUAY-4739](#): ストレージレプリケーションが奇妙な例外でエラーになります。

第10章 RHBA-2023:2087 - RED HAT QUAY 3.8.7 バグ修正の更新

2023 年 5 月 10 日発行

Red Hat Quay リリース 3.8.7 が利用可能になりました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:2087](#) アドバイザリーにリストされています。

10.1. バグ修正

- [PROJQUAY-5140](#).FEATURE_PROXY_STORAGE を改善して、複雑なインフラストラクチャー設定がある場合の障害を排除します。

第11章 RHBA-2023:1874 - RED HAT QUAY 3.8.6 バグ修正の更新

発行日 2023 年 4 月 20 日

Red Hat Quay リリース 3.8.6 が利用可能になりました。更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2023:1874](#) アドバイザリーにリストされています。

11.1. バグ修正

- [PROJQUAY-4972](#): ストレージレプリケーションワーカーが特定の例外に対して機能し続けることを許可します。

第12章 RHBA-2023:1498 - RED HAT QUAY 3.8.5 バグ修正の更新

発行日: 2023-3-28

Red Hat Quay リリース 3.8.5 が公開されました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:1498](#) アドバイザリーに記載されています。

12.1. バグ修正

- [PROJQUAY-4845](#): Quay Web インターフェイスは、ユーザーの存在とパスワードの不一致を漏らしてはなりません。

第13章 RHBA-2023:1188 - RED HAT QUAY 3.8.4 バグ修正の更新

発行日: 2023-3-14

Red Hat Quay リリース 3.8.4 が公開されました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:1188](#) アドバイザリーに記載されています。

13.1. バグ修正

- [PROJQUAY-5074](#): ヘルスチェックでは、ストレージエンジンをチェックする必要があります。
- [PROJQUAY-5117](#): Quay は、ロボットアカウントのログイン時に LDAP を呼び出します。

第14章 RHBA-2023:0906 - RED HAT QUAY 3.8.3 バグ修正の更新

発行日: 2023-2-27

Red Hat Quay リリース 3.8.3 が公開されました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:0906](#) アドバイザリーに記載されています。

14.1. バグ修正

- [PROJQUAY-3643](#): CVE-2022-24863 quay-registry-container: http-swagger: ホストシステムでのメモリーの枯渇によるサービス拒否攻撃 [quay-3.7]

第15章 RHBA-2023:0789 - RED HAT QUAY 3.8.2 バグ修正の更新

発行日: 2023-2-15

Red Hat Quay リリース 3.8.2 が Clair 4.6.0 で利用できるようになりました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:0789](#) アドバイザリーに記載されています。

15.1. バグ修正

- [PROJQUAY-4395](#): `CLEAN_BLOB_UPLOAD_FOLDER` のデフォルト値 `false` は意味がありません。
- [PROJQUAY-4726](#): スーパーユーザーのフルアクセスが有効になっている通常のユーザーの名前空間で、スーパーユーザーがビルドをトリガーしてキャンセルすると、監査ログが記録されません。
- [PROJQUAY-4992](#): 非推奨の `appr` コードをクリーンアップします。

第16章 RHBA-2023:0044 - RED HAT QUAY 3.8.1 バグ修正の更新

発行日: 2023-1-24

Red Hat Quay リリース 3.8.1 が公開されました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2023:0044](#) アドバイザリーに記載されています。

16.1. バグ修正

- [PROJQUAY-2146](#): セキュリティースキャンレポートの結合された URL (エラータ URL)。
- [PROJQUAY-](#): Web UI - アカウントを表示するとエラーが発生します。
- [PROJQUAY-4800](#): PUT メソッドを CORS メソッドリストに追加します。
- [PROJQUAY-4857](#): ドメインに Quay.io が含まれている場合は、トラッキングと Cookie コンテンツを追加します。
- [PROJQUAY-4527](#): 新しい UI の切り替えでは、Apple Safari で新しい UI から現在の UI に戻すことができません。
- [PROJQUAY-4663](#): 削除リポジトリモーダルのページネーションが正しい値を表示しません。
- [PROJQUAY-4765](#): Quay 3.8.0 のスーパーユーザーには、スーパーユーザーのフルアクセスが有効になっている場合、通常のユーザーのチームに新しいチームメンバーを追加する権限がありません。

第17章 RHBA-2022:6976 - RED HAT QUAY 3.8.0 リリース

発行日: 2022-12-6

Red Hat Quay リリース 3.8.0 が Clair 4.5.1 で利用できるようになりました。更新に含まれるバグ修正は [RHBA-2022:6976](#) アドバイザリーに記載されています。

17.1. RED HAT QUAY、CLAIR、および QUAY BUILDER の新機能と拡張機能

Red Hat Quay、Clair、および Quay Builder に対して、以下の更新が行われました。

- 以前は、Red Hat Quay は IPv4 プロトコルファミリーのみをサポートしていましたが、Red Hat Quay 3.8 スタンドアロンデプロイメントで IPv6 サポートが利用できるようになりました。さらに、デュアルスタック (IPv4/IPv6) のサポートが利用可能です。

表17.1 ネットワークプロトコルのサポート

プロトコルファミリー	Red Hat Quay 3.7	Red Hat Quay 3.8
IPv4	✓	✓
IPv6		✓
デュアルスタック (IPv4/IPv6)		✓

詳細は、[PROJQUAY-272](#) を参照してください。

既知の制限のリストは、[IPv6 およびデュアルスタックの制限](#) を参照してください。

- 以前は、Red Hat Quay は Subject Alternative Names (SANs) を使用するために自己署名証明書が必要としました。Red Hat Quay ユーザーは、必要な証明書をバイパスするために **GODEBUG=x509ignoreCN=0** に一致する Common Name を一時的に有効にすることができました。

Red Hat Quay 3.8 では、Red Hat Quay は Go バージョン 1.17 を使用するようにアップグレードされました。その結果、**GODEBUG=x509ignoreCN=0** の設定は機能しなくなりました。ユーザーは、SAN を使用するために自己署名証明書を含める必要があります。

詳細は、[PROJQUAY-1605](#) を参照してください。

- Red Hat Quay プロキシキャッシュ機能に対して、以下の機能強化が行われました。
 - 以前は、クォータ管理が有効になっているプロキシ組織のキャッシュが最大容量に達する可能性がありました。その結果、管理者がキャッシュされたイメージをクリーンアップするまで、新しいイメージのプルが阻止される可能性がありました。今回の更新により、Red Hat Quay 管理者は、組織のストレージクォータを使用してキャッシュサイズを制限できるようになりました。キャッシュサイズを制限すると、イメージのプル頻度または全体的な使用状況に応じて、キャッシュからイメージを破棄することで、バックエンドストレージの消費を予測可能に保つことができます。その結果、クォータ管理によって割り当てられるストレージサイズは常に制限内に収まります。

詳細は、[プロキシ組織でのストレージクォータ制限の活用](#) を参照してください。

- 以前は、リポジトリをミラーリングする場合に、**latest** タグを持つイメージがリモートリポジトリに存在している必要がありました。この要件は削除されました。現在、**latest** タグを持つイメージは必要なくなり、既存のタグを明示的に指定する必要がなくなりました。
この更新の詳細は、[PROJQUAY-2179](#) を参照してください。

タグパターンの詳細は、タグパターンの [ミラーリング](#) を参照してください。

- Red Hat Quay 3.8 には、以下の Open Container Initiative (OCI) イメージメディアタイプのサポートが含まれるようになりました。
 - Software Packadage Data Exchange (SPDX)
 - Syft
 - CycloneDX
 これらは、ユーザーが **config.yaml** ファイルで設定できます。以下に例を示します。

config.yaml

```
...
ALLOWED_OCI_ARTIFACT_TYPES:
  application/vnd.syft+json
  application/vnd.cyclonedx
  application/vnd.cyclonedx+xml
  application/vnd.cyclonedx+json
  application/vnd.in-toto+json
...
```



注記

デフォルトで設定されていない OCI メディアタイプを追加する場合、ユーザーは必要に応じて cosign と Helm のサポートも手動で追加する必要があります。ztsd 圧縮スキームはデフォルトでサポートされているため、ユーザーはサポートを有効にするためにその OCI メディアタイプを config.yaml に追加する必要はありません。

17.2. 新しい RED HAT QUAY 設定フィールド

- Red Hat Quay の新しいユーザーインターフェイスをテストするために、以下の設定フィールドが追加されました。
 - FEATURE_UI_V2**: この設定フィールドを使用して、ユーザーはベータ UI 環境をテストできます。
デフォルト: False

詳細は、[v2 ユーザーインターフェイスの設定](#) を参照してください。
- Red Hat Quay レジストリーを強化するために、以下の設定フィールドが追加されました。
 - FEATURE_LISTEN_IP_VERSION**: この設定フィールドを使用すると、ユーザーはプロトコルファミリーを IPv4、IPv6、またはデュアルスタックに設定できます。この設定フィールドは正しく設定する必要があります。そうしないと、Red Hat Quay は起動に失敗します。
デフォルト: IPv4

追加設定: IPv6、dual-stack

詳しくは、[IPv6 設定フィールド](#) を参照してください。

- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のデプロイメントを強化するために、次の設定フィールドが追加されました。

- **LDAP_SUPERUSER_FILTER**: この設定フィールドは、**LDAP_USER_FILTER** 設定フィールドのサブセットです。設定すると、Red Hat Quay 管理者は、Red Hat Quay ユーザーが認証プロバイダーとして LDAP を選択する場合に、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーをスーパーユーザーとして設定することができます。
このフィールドを使用すると、管理者は Red Hat Quay 設定ファイルを更新してデプロイメントを再起動することなく、スーパーユーザーを追加または削除できます。

このフィールドでは、**AUTHENTICATION_TYPE** が **LDAP** に設定されている必要があります。

詳細は、[LDAP スーパーユーザー設定リファレンス](#) を参照してください。

- **LDAP_RESTRICTED_USER_FILTER**: この設定フィールドは、**LDAP_USER_FILTER** 設定フィールドのサブセットです。設定すると、Red Hat Quay 管理者は、Red Hat Quay が認証プロバイダーとして LDAP を使用する場合に、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーを制限付きユーザーとして設定できます。
このフィールドでは、**AUTHENTICATION_TYPE** が **LDAP** に設定されている必要があります。

詳細は、[LDAP 制限付きユーザー設定](#) を参照してください。

- スーパーユーザーのロールを強化するために、次の設定フィールドが追加されました。
 - **FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS**: この設定フィールドは、スーパーユーザーが所有していない名前空間、または明示的な権限を持っていない名前空間内の他のリポジトリからコンテンツを読み取り、書き込み、削除する機能をスーパーユーザーに付与します。
詳細は、[FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS 設定リファレンス](#) を参照してください。
 - **GLOBAL_READONLY_SUPER_USERS**: この設定フィールドは、公開リポジトリであるかどうかに関係なく、このリストのユーザーにすべてのリポジトリへの読み取りアクセスを許可します。
詳細は、[GLOBAL_READONLY_SUPER_USERS 設定リファレンス](#) を参照してください。



注記

現在の状態では、この機能により、指定されたユーザーのみがすべてのリポジトリからコンテンツをプルできます。管理上の制限は、Red Hat Quay の今後のバージョンで追加される予定です。

- ユーザー権限を強化するために、次の設定フィールドが追加されました。
 - **FEATURE_RESTRICTED_USERS: RESTRICTED_USERS_WHITELIST** で設定すると、制限付きユーザーは自分の名前空間で組織またはコンテンツを作成できなくなります。通常のアクセス許可は、組織のメンバーシップに適用されます。たとえば、制限付きのユーザーは、所属するチームをもとに、組織内の通常のパーミッションは割り当てられたままです。
詳細は、[FEATURE_RESTRICTED_USERS 設定リファレンス](#) を参照してください。

- `RESTRICTED_USERS_WHITELIST: FEATURE_RESTRICTED_USERS: true` で設定すると、管理者は `FEATURE_RESTRICTED_USERS` 設定からユーザーを除外できます。詳細は、[RESTRICTED_USERS_WHITELIST 設定リファレンス](#) を参照してください。

17.3. RED HAT QUAY OPERATOR

Red Hat Quay Operator に対して以下の更新が行われました。

- 以前は、Red Hat Quay Operator は IPv4 プロトコルファミリーのみをサポートしていました。Red Hat Quay 3.8 Operator デプロイメントで IPv6 サポートが利用できるようになりました。

表17.2 ネットワークプロトコルのサポート

プロトコルファミリー	Red Hat Quay 3.7 Operator	Red Hat Quay 3.8 Operator
IPv4	✓	✓
IPv6		✓
デュアルスタック (IPv4/IPv6)		

詳細は、[PROJQUAY-272](#) を参照してください。

既知の制限のリストは、[IPv6 およびデュアルスタックの制限](#) を参照してください。

17.4. RED HAT QUAY 3.8 の既知の問題と制限事項

17.4.1. 既知の問題:

- MySQL デプロイメントの `logentry3` テーブルの `metadata_json` 列のサイズは `TEXT` に制限されています。現在、`TEXT` に設定されている列のデフォルトサイズは 65535 バイトです。65535 バイトでは、デバッグがオフになっている場合、いくつかのミラーログには十分な大きさではありません。65535 バイトを超える `TEXT` を含むステートメントが MySQL に送信されると、送信されたデータは 65535 境界に収まるように切り捨てられます。その結果、これにより、`metadata_json` オブジェクトがデコードされるときに問題が発生し、文字列が適切に終了されないためにデコードが失敗します。その結果、Red Hat Quay は 500 エラーを返します。
現在、この問題の回避策はなく、Red Hat Quay の今後のバージョンで対処される予定です。詳細は、[PROJQUAY-4305](#) を参照してください。
- Podman v4.yz 以降の一部のバージョンで `--sign-by-sigstore-private-key` フラグを使用する場合は既知の問題があります。このフラグを使用すると、`Error: writing signatures: writing sigstore attachments is disabled by configuration` エラーが返されます。このフラグを Podman v4 で使用するには、バージョンが v4.2.1 である必要があります。4.2.1 より前のバージョンでは、前述のエラーが返されます。現在、この問題の回避策はなく、Podman の今後のバージョンで対処される予定です。
- 現在、Podman 4 で Cosign 秘密鍵 `sigstore` を使用してイメージをプッシュすると、`Error: received unexpected HTTP status: 500 Internal Server Error` エラーが返されます。これは既知の問題であり、Podman の今後のバージョンで修正される予定です。詳細は、[PROJQUAY-4588](#) を参照してください。

- Red Hat Quay UI v2 で **FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS** 設定フィールドを使用する場合は、既知の問題があります。このフィールドが設定されている場合は、テナントコンテンツに対するすべてのスーパーユーザーアクションを監査する必要があります。現在、通常のユーザーが所有する既存の組織をスーパーユーザーが削除する場合は、その操作を監査する方法がありません。これは、Red Hat Quay の将来のバージョンで修正される予定です。
- Red Hat Quay UI v2 で **FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS** 設定フィールドを使用する場合は、既知の問題があります。config.yaml ファイルでこのフィールドを **true** に設定すると、Red Hat Quay スーパーユーザーは通常のユーザーが作成した組織を表示できますが、イメージリポジトリは表示できません。一時的な回避策として、スーパーユーザーは **組織** ページから移動して、そのリポジトリを表示できます。これは、Red Hat Quay の将来のバージョンで修正される予定です。
- **FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS** 設定フィールドを **true** に設定すると、スーパーユーザーには、通常のユーザーの組織の下に新しいイメージリポジトリを作成する権限がありません。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。
- 古い UI で Red Hat Quay を実行している場合は、セッションがタイムアウトになると、ユーザーはポップアップウィンドウでパスワードを再度入力する必要があります。新しい UI では、スーパーユーザーはメインページに戻り、ユーザー名とパスワードの認証情報を入力する必要があります。これは既知の問題であり、新しい UI の今後のバージョンで修正される予定です。
- **FEATURE_RESTRICTED_USERS** が **true** に設定されている場合、スーパーユーザーは新しい組織を作成できません。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。
- **FEATURE_RESTRICTED_USERS** または **LDAP_RESTRICTED_USER_FILTER** が **user1** などのユーザーで設定され、同じユーザーがスーパーユーザーでもある場合、新しい組織を作成することはできません。これは既知の問題です。スーパーユーザー設定フィールドは、制限されたユーザー設定よりも優先される必要がありますが、これも無効な設定です。Red Hat Quay 管理者は、同じユーザーを制限付きユーザーとスーパーユーザーの両方に設定しないでください。これは、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正され、スーパーユーザー設定フィールドが制限付きユーザーフィールドよりも優先されるようになります。
- Red Hat Quay 設定エディターで **Enable Storage Replication** を選択し、Red Hat Quay デプロイメントを再設定した後、新しい **Quay** および **Mirror Pod** の起動に失敗します。このエラーは、**Quay** および **Mirror Pod** が、Red Hat Quay 3.8 でサポートされなくなった **QUAY_DISTRIBUTED_STORAGE_PREFERENCE** 環境変数に依存しているために発生します。一時的な回避策として、以下のように **QuayRegistry config.yaml** ファイルを手動で更新して、**QUAY_DISTRIBUTED_STORAGE_PREFERENCE** 環境変数を含める必要があります。

```
spec:
  components:
    - kind: clair
      managed: true
    - kind: postgres
      managed: true
    - kind: objectstorage
      managed: false
    - kind: redis
      managed: true
    - kind: horizontalpodautoscaler
      managed: true
```

```

- kind: route
  managed: true
- kind: mirror
  managed: true
  overrides:
    env:
      - name: QUAY_DISTRIBUTED_STORAGE_PREFERENCE
        value: local_us
- kind: monitoring
  managed: false
- kind: tls
  managed: true
- kind: quay
  managed: true
  overrides:
    env:
      - name: QUAY_DISTRIBUTED_STORAGE_PREFERENCE
        value: local_us
- kind: clairpostgres
  managed: true

```

これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。

- Red Hat Quay AWS S3 Cloudfront を設定する場合、新しいパラメーター **s3_region** が必要です。現在、Red Hat Quay 設定エディターにはこのフィールドが含まれていません。一時的な回避策として、以下のように **config.yaml** ファイルに **s3_region** パラメーターを手動で挿入する必要があります。

```

DISTRIBUTED_STORAGE_CONFIG:
  default:
    - CloudFrontedS3Storage
    - cloudfront_distribution_domain: <domain_name>
      cloudfront_distribution_org_overrides: {}
      cloudfront_key_id: <cloudfront_key_id>
      cloudfront_privatekey_filename: default_cloudfront_signing_key.pem
      host: s3.us-east-2.amazonaws.com
      s3_access_key: ***
      s3_bucket: ***
      s3_secret_key: ***
      storage_path: /cloudfronts3/quayregistry
      s3_region: us-east-2

```

17.4.2. IPv6 とデュアルスタックの制限事項と既知の問題:

- 現在、一般的な Azure Blob Storage 設定を使用して Red Hat Quay デプロイメントを設定しようとしても、IPv6 シングルスタック環境では機能しません。Azure Blob Storage のエンドポイントは IPv6 をサポートしていないため、この問題に対する回避策はありません。詳細は、[PROJQUAY-4433](#) を参照してください。
- 現在、Amazon S3 CloudFront を使用して Red Hat Quay デプロイメントを設定しようとしても、IPv6 シングルスタック環境では機能しません。Amazon S3 CloudFront のエンドポイントは IPv6 をサポートしていないため、この問題に対する回避策はありません。詳細は、[PROJQUAY-4470](#) を参照してください。
- 現在、デュアルスタック (IPv4 および IPv6) のサポートは、Red Hat Quay OpenShift

Container Platform デプロイメントでは機能しません。Red Hat Quay 3.8 が OpenShift Container Platform にデプロイされ、IPv6 とデュアルスタックサポートが有効になっている場合、Red Hat Quay Operator によって生成される Quay Route は IPv4 アドレスのみを生成し、IPv6 アドレスは生成しません。その結果、IPv6 アドレスを持つクライアントは、OpenShift Container Platform 上の Red Hat Quay アプリケーションにアクセスできません。この制限は、OpenShift Container Platform 4.12 のリリースで解除されます。

- 現在、Github と api.github.com は IPv6 をサポートしていません。IPv6 が有効な OpenShift Container Platform に Red Hat Quay がデプロイされている場合、Github 認証を使用するように設定エディターを設定することはできません。
- 現在、Gitlab は IPv6 をサポートしていません。
- **FEATURE_LISTEN_IP_VERSION** が IPv6 に設定され、設定エディターで Red Hat Quay handles TLS を選択し、自己署名証明書をアップロードした場合に既知の問題があります。これらの条件が満たされている場合に、設定エディターでいずれかの設定を更新して（たとえば、新しいスーパーユーザーを追加するなど）、Red Hat Quay を再設定すると、ミラー Pod がクラッシュし、**Init:CrashLoopBackOff** のエラーが返されます。デプロイで Red Hat Quay handles TLS が選択されている場合には、**FEATURE_LISTEN_IP_VERSION** を IPv4 に設定する必要があります。これは、Red Hat Quay の将来のバージョンで修正される予定です。

17.5. RED HAT QUAY のバグ修正

- [PROJQUAY-4431](#): プロキシキャッシュが Azure Container Registry (ACR) を検証できませんでした。

17.6. RED HAT QUAY 機能トラッカー

Red Hat Quay に新機能が追加され、その一部は現在テクノロジープレビューにあります。テクノロジープレビュー機能は実験的な機能であり、本番環境での使用を目的としたものではありません。

以前のリリースで利用可能であった一部の機能が非推奨になるか、削除されました。非推奨の機能は引き続き Red Hat Quay に含まれていますが、今後のリリースで削除される予定であり、新しいデプロイメントには推奨されません。Red Hat Quay で非推奨および削除された機能の最新のリストについては、表 1.1 を参照してください。非推奨になったか、削除された機能の詳細情報は、表の後に記載されています。

表17.3 テクノロジープレビュートラッカー

機能	Quay 3.8	Quay 3.7	Quay 3.6
Docker v1 サポート	非推奨	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
FEATURE_UI_V2	テクノロジープレビュー	-	-
FEATURE_LISTEN_IP_VERSION	一般公開 (GA)	-	-
LDAP_SUPERUSER_FILTER	一般公開 (GA)	-	-

機能	Quay 3.8	Quay 3.7	Quay 3.6
LDAP_RESTRICTED_USER_FILTER	一般公開 (GA)	-	-
FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS	一般公開 (GA)	-	-
GLOBAL_READONLY_SUPER_USERS	一般公開 (GA)	-	-
FEATURE_RESTRICTED_USERS	一般公開 (GA)	-	-
RESTRICTED_USERS_WHITELIST	一般公開 (GA)	-	-
クォータの管理および実施	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
Red Hat Quay ビルドの機能強化	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
アップストリームレジストリーのプロキシキャッシュとしての Red Hat Quay	一般公開 (GA)	テクノロジー プレビュー	-
Geo レプリケーション - Red Hat Quay Operator	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
高度な Clair 設定	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
Microsoft Azure Government (MAG) のサポート	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
FEATURE_HELM_OCI_SUPPORT	非推奨	非推奨	非推奨
MySQL および MariaDB データベースのサポート	非推奨	非推奨	非推奨
Open Container Initiative (OCI) メディアタイプ	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
Clair を使用した Java スキャン	テクノロジー プレビュー	テクノロジー プレビュー	テクノロジー プレビュー
Image API	非推奨	非推奨	一般公開 (GA)

17.6.1. 非推奨の機能

- Docker v1 のサポートは非推奨となり、Red Hat Quay の今後のリリースで削除される予定です。ユーザーは、Docker v1 サポートを有効にするためにオプトインする必要があります。ユーザーは、データが失われる可能性を回避するために、Docker v1 形式で保存されているイメージを OCI イメージ形式に移行する必要があります。